

# 海外研修・課題研究報告書作成のためのルーブリック活用の仕方

## 【ルーブリックの意義について】

このルーブリックには二つの意味をもたせて作成しました。それは次の①②です。

①レポートの各項目を作成する**前**の到達指針とする。

②レポートの各項目を作成した**後**の評価指針となる。

## 【ルーブリックの意義①について】

ルーブリックは**レポートの各項目を作成する前の到達指針**となります。次のような活用の仕方を心がけましょう。以下はA研究テーマを例にルーブリックの事前活用を説明したものです。

A 研究 テーマ	5	研究テーマの主題が独創的であり、研究の方向性も具体的にわかるように設定されている。また、研修旅行の行程も考慮されており、検証の実現が見込めるテーマとなっている。
	4	研究テーマの主題が明確であり、研究の方向性が具体的にわかるように設定されている。また、研修旅行との関連が考慮されたテーマとなっている。
	3	研究テーマの主題は理解でき、研究の方向性がわかるように設定されている。
	2	研究テーマの主題は理解できるが、研究の方向性が具体的には分かりかねる。
	1	研究テーマの主題が曖昧であり、研究の方向性が具体的にわからない。

例えば、自分でA研究テーマを設定する際に自分自身がどの程度まで設定すれば良いか分からずに次のようなテーマを設定したとします。

### 例1) 貧困問題について

これは、ルーブリックを活用すると評価は「1」です。研究テーマの主題が曖昧で、具体的にそのテーマで何を追究するのかがまったく不明です。では次のように変えてみたらどうでしょう。

### 例2) タイにおけるストリートチルドレンの貧困問題について

先ほどのテーマに比べて主題の明確性ができましたね。評価は「2」です。これを「3」に変えるためには【研究の方向性】を付加すれば良いことがわかります。

### 例3) タイのストリートチルドレンの貧困問題はなぜ起こるのか

研究の方向性はストリートチルドレンの貧困問題の【背景について】に絞られました。よって評価は「3」です。ここまでくれば合格点！でももっと上の評価を意識してテーマを設定してみましょう。

その際、**研究論文検索サイトC i N i i**などを検索することもおすすめです。先行研究について調べると同時に、先輩研究者のテーマの立て方を参考にすることができます。

### 例4) 北タイのストリートチルドレン支援施設の現状と課題について：NGO アーサー・パッターナー・デック財団「子どもの家」を訪問して（C i N i i：大條 あこ 桜美林論考、心理・教育学研究 4, 1-25, 2013-03)

ストリートチルドレン問題の中でも【支援施設のあり方】に焦点を絞り、具体性を増しています。また、【NGO アーサー・パッターナー・デック財団「子どもの家」】は研修旅行で訪れる施設ですので【研修旅行との関連性】もGOODですよね。評価は「4」です。

評価「5」のテーマは【独創性】が求められます。これもC i N i iから探してみましょう。

### 例5) ベトナムのストリートチルドレン問題から日本の子ども虐待問題へ：市民社会による問題解決の可能性を探る（C i N i i：吉井 美知子，よしい みちこ，Yoshii Michiko，沖縄大学人文学部)

（「ベトナム」の事例であることは目をつぶってもらってm( )m「ストリートチルドレン」と「日本の子ども虐待問題」を比較して論じようというテーマ設定が【独創性】として認められるポイントです。ただし、このようなテーマを設定するためにはある程度の見通し（仮説）が立っていないと無茶苦茶な（半ばこじつけで論が展開されるような）ものになりがちです。よって先行研究や文献にこの段階である程度当たっていないとこのようなテーマ設定は不可能です。**例3)以降のテーマを立てるためには先行研究や文献にあたる事前研究が必須になります。よって自分が研修旅行において訪問する施設や場所についてきちんと調べておきましょう。**

また、例5)はストリートチルドレン施設を訪問するタイ研修旅行では【検証の実現】は高いテーマ設定ともなっているので評価は「5」です。

このようにまずルーブリックは【①レポートの各項目を作成する前の到達指針】として活用ができます。ルーブリックの評価「5」が求めている達成度を理解した上でレポートの各項目を考えることによってより精度の高いテーマや目的を設定することができます。また、これは**事前研究**のみでなく、**調査**の項目でも現地や日本においてどのような目的意識をもって研究行動をするかの指針ともなりますし、**事後研究**において完成させるべき考察の達成の指針ともなります。事前に目を通して意義のある研修旅行を計画しましょう。

## 【ルーブリックの意義②について】

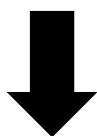
ルーブリックにはもう一つの意義があります。それは「レポートの各項目を作成した後の評価指針となる」というものです。これはさらに二つの種類の評価に大別されるもので **i 自己評価** と **ii 他者評価（指導者）** に分けて考えます。今回の研修レポートの書式では **調査** が **i 自己評価**、**事前研修** および **事後研究** が **ii 他者評価（指導者）** による評価となっています。

まずは **i 自己評価** での活用方法を見てみましょう。

<b>E</b> 調査における目的の達成度	5	設定した目的を十分に達成した上で、新たな課題を発見し、それを探求することができた。
	4	設定した目的をほぼ達成した上で、新たな課題を発見することができた。
	3	設定した目的をほぼ達成することができた。
	2	設定した目的をあまり達成することができなかった。
	1	設定した目的をまったく達成することができず、研究に進展が見られなかった。

例えば、上記の「E 現地研究における目的の達成度」において **自己評価** として「5」をつけたとしましょう。その場合のレポートの記述はルーブリックをもとに「①どのように設定した目的を十分に達成できたか」「②新たにどのような課題を発見したか」そして「③その新しく発見した課題をどのように探求したか」を具体的に文章化することによつて的確な自己評価を書くことができます。

例) **事前研究「B 研究目的」**：タイにおけるストリートチルドレンの貧困問題について研究する上で、貧困問題の背景にある山岳少数民族を取り巻く諸問題について明らかにする。



ルーブリックをもとに具体的に文章化すると・・・

①山岳少数民族は従来、移動型の生活を送り焼き畑農業を主として生計を立てていたが、政府の介入により定住型の生活スタイルをとることを余儀なくされている。しかしながら、学歴や戸籍がないこと、タイ語が話せないことなどが障害となり、職を得ることがなかなか困難な状況にあることが分かった。

②また、職を得ることが困難であるために麻薬売買や売春によって生計を立てざるをえず、それが A I D S の蔓延やそれに伴う A I D S 孤児の増加につながっていることを新たに発見した。

③ A I D S 孤児の現状について詳しく知るためにバーンロムサイで代表を務める名取美和さんに質問をした。それによれば、タイでは依然として A I D S 孤児は増加しているとのことである。また、A I D S 患者が苦しむのはもちろん病気に感染している事からくる死の恐怖もさることながら、社会からの偏見と差別であるとのことであった。A I D S 患者への偏見と差別についても調べる必要がありそうである。

(以上の文章は例として創作したものです。)

次に **ii 他者評価（指導者）** での活用方法を見てみましょう。

**ii 他者評価（指導者）**により、評価されるのは**事前研究**と**事後研究**についてです。**事前研究**については【ループリックの意義①について】で触れていますので、ここでは**事後研究**に焦点をあててみていきましょう。

例えば事後研究H考察の達成度（根拠、論理的側面）のループリックは次のようになっています。

<b>H 考察の達成度（根拠、論理的側面）</b>	5	根拠にもとづきながら論理的に考察されており、正確で説得力のある結論を導くことができている。
	4	根拠にもとづきながらほぼ論理的に考察されており、説得力のある結論を導くことができている。
	3	根拠にもとづきながら論理的に考察されているが、説得力のある結論を導くことができていない。
	2	根拠は示されているがデータや文章の意味を取り違えているなど、根拠としてはすぐわかないものを使用されている。よって説得力のある結論を導くことができていない。
	1	根拠が示されず客観性に乏しい。考察も論理的ではなく、情緒的な側面が強い。

このループリックをもとに指導者は皆さんの考察を評価します。よって皆さんは【ループリックの意義①について】で活用したように、できるだけ「5」の評価になるような考察を心がけてください。そのためには「①根拠にもとづくこと」「②論理的であること」「③正確で説得力がある結論を導くこと」が求められます。どのようにしたらこの3点をみたく考察を書けるのでしょうか。

### 〈①根拠にもとづくこと〉

根拠にもとづいて論じるためには、まずはその根拠となる文献や参考資料の出典を明らかにしなくてはなりません。これはループリックの【J 先行研究、参考文献および資料】の項目に相当するものですが、きちんと調べたものはその出典をきちんと記しておきましょう。文献や論文であるならば【**著者名・（出版年）・『書名、記事名、論文名』・出版社**】を、Web であれば【**著者名・「ページタイトル・サイト名」・〈URL〉・（参照日）**】を書きます。また、**文中に引用する場合には自分の意見と区別するために必ず「」を付して引用してください**ね。

### 〈②論理的であること〉〈③正確で説得力がある結論を導くこと〉

論理的に、かつ説得力のある論を導くためには型が必要です。「序論」「本論」「結論」の型にあてはめながら書くのが一般的ですが、今回のレポート形式は「序論」＝「**事前研究**」、「本論」＝「**研究**」、「結論」＝「**事後研究**」になるように構成されています。よって考察部分だけに限って言えば、以下の3つに気をつけて書くことが重要です。

- 【1】事実と意見を区別して書くこと。
- 【2】根拠に支えられた主張を行うこと。
- 【3】主張と主張のつながりに飛躍がないようにすること。

以上が【**②レポートの各項目を作成した後の評価指針**】としてのループリックの活用の仕方です。また、今回のレポートは研究論文を書く際の「序論」「本論」「結論」を意識したワークシートとなっています。論文まで仕上げたい場合には、担当者に相談してください。指導に応じます。